

# 第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

東大阪市立花園中学校

C-18

## 【活動名】 アクティブ・ラーニングの実践を広げる

**解決すべき課題：** どんな問題を解決しましたか？

「アクティブ・ラーニング」や「主体的で対話的な深い学び」の具体的な授業実践について、学校現場で困っている先生方が多いこと。

**目的や背景：** 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

中央教育審議会の答申でアクティブ・ラーニング（以下、A L）という言葉が使われ、「主体的で対話的な深い学び」という言葉が使われました。学校現場で子どもたちと向き合う我々教師は、日々の教育活動や授業が、今後具体的にどのように変わるのかが現実的に捉えきれないという教師が多いように感じていました。私は日本経済団体連合会の提言などを読み、A Lの方法ではなく、A Lが求められる背景やA Lで獲得すべきチカラに注目しました。これまで行われてきた一斉講義形式の授業で10年後20年後50年後の社会を、目の前の子どもたちが幸せに生きていけるのであれば、一斉講義形式の授業で問題はありません。しかし、目の前の子どもたちを「一人も見捨てず」に幸せに生きるには、一斉講義形式の授業では限界があります。

A Lが求められるその背景を、教師である我々は知らなければなりません。子どもの人生に関わる教師は、子どもの人生に関わっていることを自覚しながら日々の一時間一時間の授業を行わなければいけません。全国にあるすべての小中高等学校のすべての教室で、子どもの将来を見据えた授業が展開される日本でありたいと願っています。

**活動内容：** 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

授業公開を平成28年度の一年間に14回行いました。私の授業見学に北海道や熊本からも授業見学に来られました。また、見学にお越しいただく方は中学校の先生だけではなく小学校・高等学校・専門学校の先生方、新聞記者、各市の教育委員会指導主事、教育長も来られました。授業見学後に、1時間半ほど質疑応答を行い、これからの授業について意見交換をしました。

しかし授業見学に来られる方に「花園中学校だからできるのではありませんか？」という質問をされる方がいました。この質問をされる方の意識の中には、ご自身が勤務する学校の「子どもたちに」原因があるから、A Lの実践はできないと考えがあるのではないかと思いました。原因は「子どもたち」ではないと証明したかった。原因は「子どもたち」ではないことを証明するために、飛び込み授業という活動を始めました。

飛び込み授業とは、依頼を受けた学校の指定された学級で、教科書の続きから私がA Lの授業を実践します。飛び込み授業を平成29年3月から始めました。大阪府内だけではなく、山形県の中学校にも飛び込み授業に行きました。2月には福岡県の中学校に飛び込み授業をする予定です。また校種は、中学校だけではなく勤務校の中学校区の小学校や大阪府内の高等学校にも飛び込み授業に行っています。

飛び込み授業をした後は、職員研修会を行っています。A L型の授業や主体的で対話的な深い学びの授業実践について、先方の先生方とA L型の研修会を行います。

A L型の授業や主体的で対話的な深い学びの授業実践と「一人も見捨てない教育」が、日本全国の学校に広がってほしいです。そのために、本を読むことや研修会に参加するも効果的かもしれませんが、依頼を受けた学校に行き、その学校で私が教科書の続きで授業をすることで、A L型の授業や主体的で対話的な深い学びの授業実践と「一人も見捨てない教育」を広げたいです。

**活動の成果：** それによって、どんな成果が得られましたか？

飛び込み授業をした学校で、その後A L型の授業や主体的で対話的な深い学びの授業実践と「一人も見捨てない教育」の実践を始めたという先生方がおられます。

また、飛び込み授業に行かせてもらった学校の先生方と、電話やメールで困ったことがあれば連絡を取り合い、目の前の子どもたちのためにできることすべてをやっています。

**アピールポイント（アイデア）：** もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

私は、A L型の授業や主体的で対話的な深い学びの授業実践と「一人も見捨てない教育」を『学び合い』（二重カッコの学び合い）という考え方で実践しています。『学び合い』は、上越教育大学の西川純教授が提唱されている考え方で、本校で『学び合い』を実践している先生方も増えています。しかし、一斉講義形式の授業をしている先生方とは軋轢が生じることなく折り合いをつけられています。不易と流行のバランスを大切に、自然な形で授業改革を起こすことができていると自負しております。